

時代を見据えた歯科技工の考え方 ～効率化に向けた考え方と実践～

近年では DX の言葉が浸透し、世界の企業が生産性の向上を推し進めていますが、歯科業界も同じように効率の良い働き方を求められる時代となっています。

デジタル使いのある程度の工程は、効率よく品質を安定させることが出来るようになりました。

しかしデジタルを活用し生産性を上げるには、機器の特性を把握して適切に活用することが重要である一方、扱う側の時間の意識を持つことや、スタッフ間の連携を強化することでかなりの効率化になると考え「効率よく働く考え方」や、「スタッフの教育と育成」を考えたシステムを構築することが生産性向上になると考えています。

また生産性に関しては「良いものを製作するには時間が掛かってしまう」と思う方は多いのではないのでしょうか。意図した形を作るには時間が掛かるものですが、全ての工程において慎重に進めるわけではありません。

時間の掛かる複雑な内容も工程を明確に分けることで、ひとつの工程は単純な作業となり、後戻りが少なく効率よく進めることができます。

例えば色の表現工程では、ステイン液の屈折率 1.42 と陶材の屈折率 1.50 の違いからステインの焼成前と焼成後ではステインの色が違う問題がありました。

陶材の主成分である基材ガラスと同じ屈折率 1.50 に設計された~~リキッドとステイン陶材~~~~山本リキッドと VINTAGE Art Universal stain~~を使うことで塗布の段階で焼成後の色調を確認しながら工程を進められ、モノリシックジルコニアやライトレイヤリングにおいて山本リキッドの活用が有効となり作業の後戻りを少なくできると考えます。

このように材料を理解し考え方を変えることで、後戻りが少なく効率よく結果を出すことができると考えています。

物事は、「考え方次第」で結果が大きく変わり、この「思考」を柔軟に捉えて変化することを求められる時代です。

今回の講演ではデジタル・技術・経営・教育の分野を通して成果を変えるための「思考の習慣」を共に考え、将来の vision を見据える機会になればと思っています。